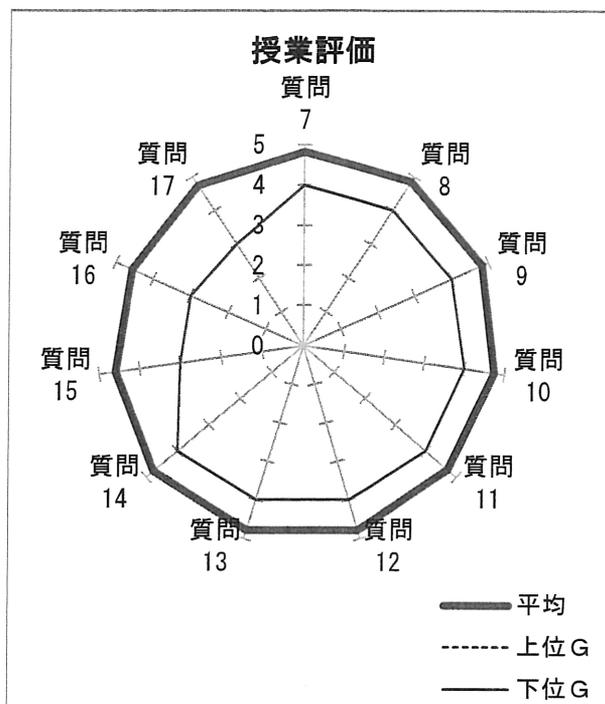


# 科目コード 953 (2018年度 後期)

看護学部 看護学科 大曲純子 成人看護学方法論 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	4.0
質問 8	4.9	4.9	4.0
質問 9	4.8	4.8	4.0
質問10	4.7	4.8	4.0
質問11	4.7	4.7	4.0
質問12	4.8	4.8	4.0
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.8	4.8	4.0
質問15	4.6	4.6	3.0
質問16	4.6	4.6	3.0
質問17	4.7	4.8	3.0
平均	4.7	4.8	3.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

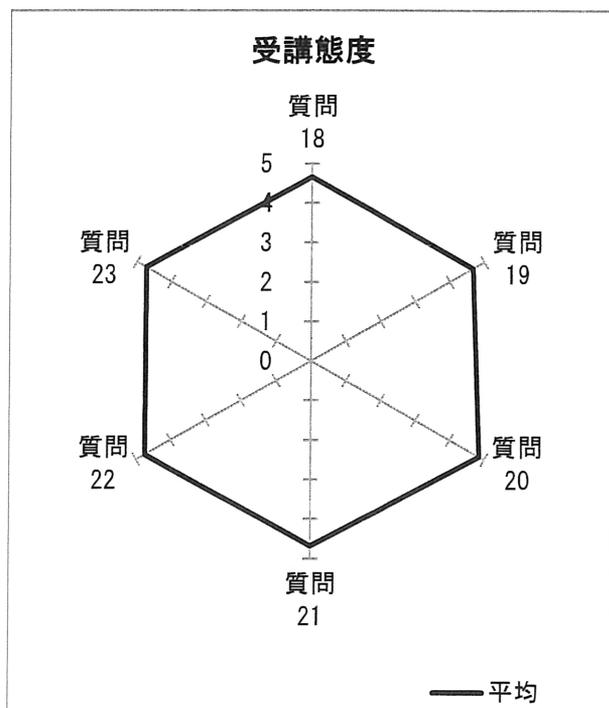
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.7
質問20	4.9
質問21	4.7
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
看護学部	看護学科	大曲、岡田、 堀川、阿部	成人看護学方法論 I	77

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

### 1. 授業評価

質問 7~17 は、97.8~100%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えており、平均値は 4.6~4.9 であった。前年度より高い評価であった。今年度は理解が深まるように周手術期の特徴的な生体侵襲をふまえ、術前・術中・術後看護に時間をかけて講義を行ったこと、演習時期を講義が終了した後で行うことで、評価が高かったのではないかと考える。しかし質問項目の中で 4.6 であり、下位が 3.0 であったのは、「質問 15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか」、「質問 16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか」という項目であった。講義は器官系統別で周手術期看護について講義している。事前学修を提示し、臨床病態学で学習した疾患を復習してもらい講義しているが、講義で扱う疾患も幅広いため、疾患の理解と周手術期における手術における影響の理解が難しく、興味・関心・意欲も低い結果となったのではと考える。

### 2. 受講態度

質問 18~23 は、95.2~100%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えており、平均値は 4.7~4.9 であった。平均点 4.7 の中で「どちらともいえない」という結果があったものは「質問 19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか」「質問 21 : 授業の予習・復習をおこなったか」「質問 22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか」であった。授業の到達目標を理解していないため、授業の予習・復習、レポート課題に積極的に行うことのできない学生もいたのではないかと考える。

## II. 2019 年度に向けての取り組み

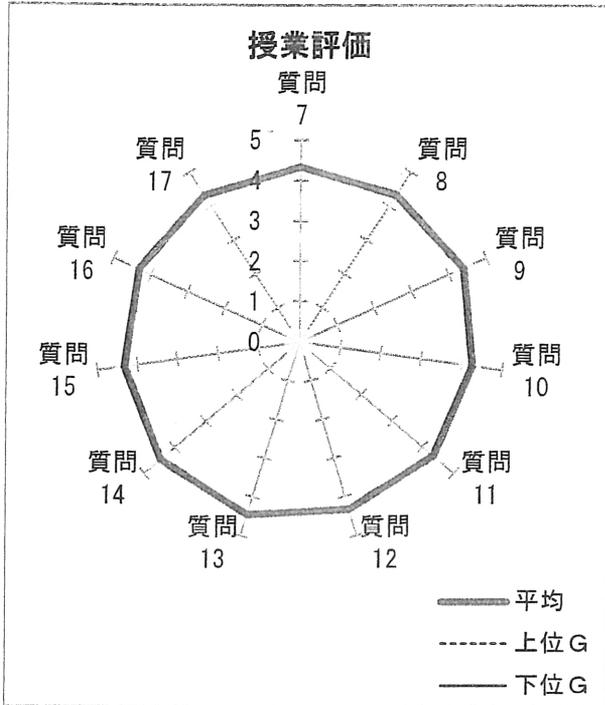
2019 年度担当予定科目名 : 成人看護学方法論 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

講義をより理解できるように、講義演習では、映像や実際使用する物を触って確認したり、実際に学生全員が体験できるような内容で学びにつなげ、理解を深められるようにしていきたい。また、学生の理解度を把握するためにも小テストを検討する。

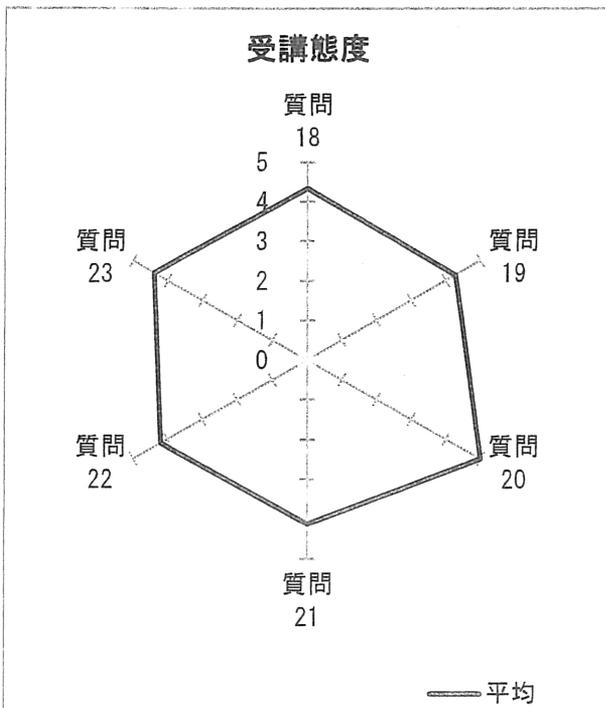
# 科目コード 961 (2018年度 後期)

看護学部 看護学科 中村寿子 公衆衛生看護学方法論Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.3	#DIV/0!
質問 8	4.3	4.3	#DIV/0!
質問 9	4.4	4.4	#DIV/0!
質問10	4.3	4.3	#DIV/0!
質問11	4.3	4.3	#DIV/0!
質問12	4.3	4.3	#DIV/0!
質問13	4.5	4.5	#DIV/0!
質問14	4.5	4.5	#DIV/0!
質問15	4.3	4.3	#DIV/0!
質問16	4.3	4.3	#DIV/0!
質問17	4.3	4.3	#DIV/0!
平均	4.4	4.4	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.3
質問20	5.0
質問21	4.1
質問22	4.2
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
看護学部	看護学科	中村寿子	公衆衛生看護方法論Ⅱ	15名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

公衆衛生看護技術である保健指導、家庭訪問の実践力を修得するため、事例を設定し、支援の展開を演習した。

授業評価は、平均4.4点であった。項目別を見ても、大きな差はないことから、知識や技術の習得はだいたいできたのではないかと考えるが、教員毎の小グループ指導のため、成果物に少し差がみられた。

事例の設定等に昨年度より項目を増やしたりしたので、事例の読み取りをより深くしなくてはならなかった。その点が難しかったように思う。

学生の理解、興味、関心は4.3とあまり高くはないが、成果物の出来栄は例年と比較してもそう変わらなかった。

受講態度についても特に問題はなかったが、自分自身の課題やレポートに対する取り組みについて低く評価しているものも数名みられた。

### II. 2019年度に向けての取り組み

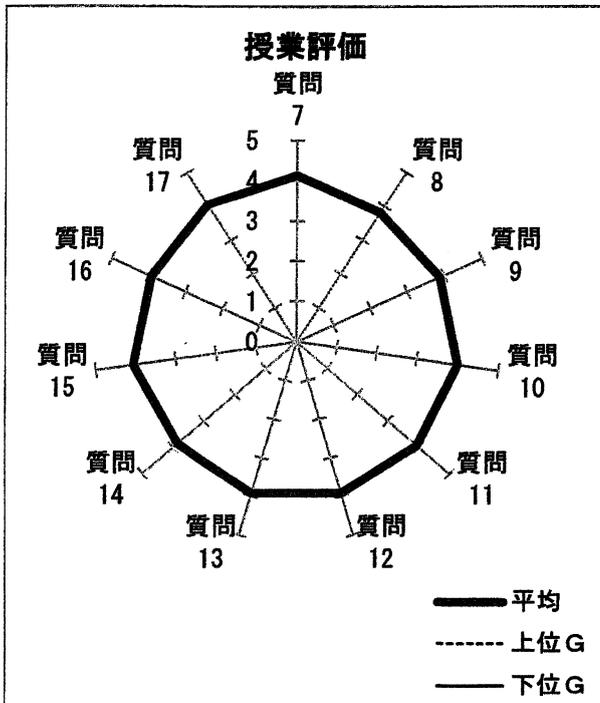
2019年度担当予定科目名：公衆衛生看護方法論Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

事例の設定については、あまり複雑にならないように注意して、工夫をしたい。

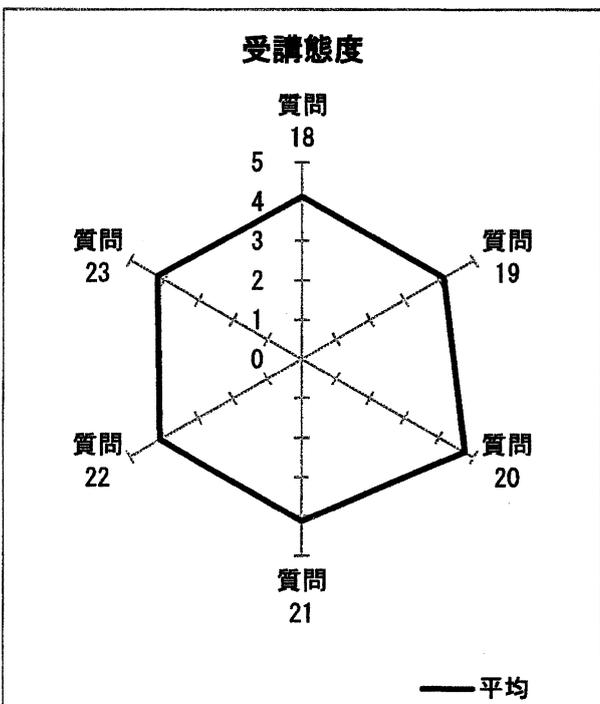
# 科目コード 962 (2018年度 後期)

看護学部 看護学科 原岡智子 公衆衛生看護学方法論 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.1	4.1	#DIV/0!
質問 8	3.8	3.8	#DIV/0!
質問 9	3.9	3.9	#DIV/0!
質問 10	4.0	4.0	#DIV/0!
質問 11	3.9	3.9	#DIV/0!
質問 12	3.9	3.9	#DIV/0!
質問 13	3.9	3.9	#DIV/0!
質問 14	3.9	3.9	#DIV/0!
質問 15	4.1	4.1	#DIV/0!
質問 16	3.9	3.9	#DIV/0!
質問 17	4.1	4.1	#DIV/0!
平均	4.0	4.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問 10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問 11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問 12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問 13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問 14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問 15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問 16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問 17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問 18	4.1
質問 19	4.1
質問 20	4.7
質問 21	4.1
質問 22	4.1
質問 23	4.2
平均	4.2

- 質問 18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問 19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問 20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問 21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問 22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問 23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
看護学部	看護学科	原岡	公衆衛生看護方法論 I	15名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

本科目の履修学生は3年生からの保健師選択コースの学生15名であり15名の評価である。

選択コースでは、3年次・4年次のコースの全科目を通して、卒業時の到達目標及び保健師に求められる実践能力の修得できることを目指し授業計画を立案している。公衆衛生看護方法論Iは保健活動の基本となる地域診断に関する科目であり、集中講義の週に講義とグループで取組むフィールドワーク、演習をおこなった。特に演習は4年次の公衆衛生看護学実習Iの実習場所ごとのグループに分かれて、科目担当教員の教授に沿い、グループの担当教員が直接詳細な指導をおこなった。演習内容は実習準備の意味も兼ねている。質問機会の確保や対応、理解度の確認等の時間をもうけ、わかりやすい説明に心がけていたが、教授方法や、本科目と実習Iとの関係から収集等をおこなうべき情報量や情報源が多く時間的余裕がなかったこと不十分であったと考える。

## II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：公衆衛生看護方法論 I

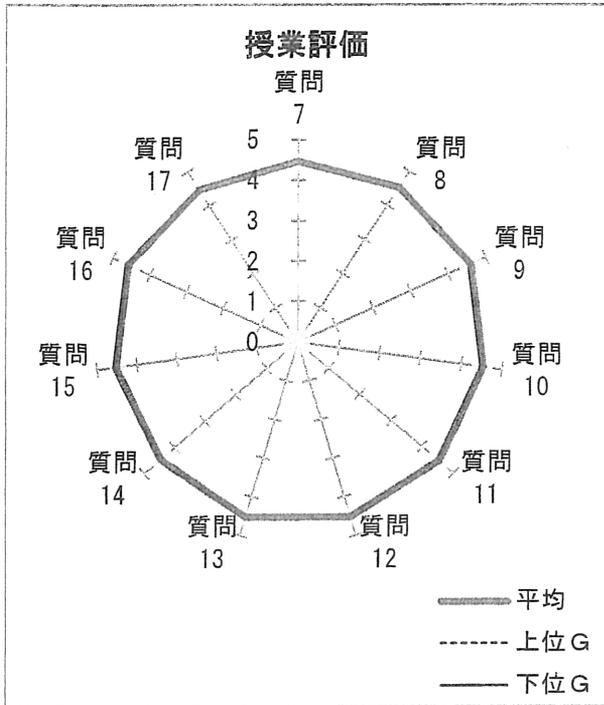
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2019年度も2018年度と同様15名が受講予定で、授業評価の対象学数である。

4年次の公衆衛生看護学実習Iまでの実習準備についてのタイムスケジュールを考えた場合、本科目の演習において4年次で実習する場所の地域診断に必要な基本的情報を収集しておく必要がある。これまでと同様に2019年度の3年次後期の本科目の授業においても、2020年度の公衆衛生看護学実習Iの地域診断の情報把握等を計画的におこなっていく予定である。その際領域の教員が具体的にグループ指導を行なうが、科目担当教員は全体的に理解度の確認や質問とその対応などの時間を確保していく。また、学生同士で地域の情報収集アセスメントが出来るように、これまでの具体例や説明を再検討し提示する予定である。

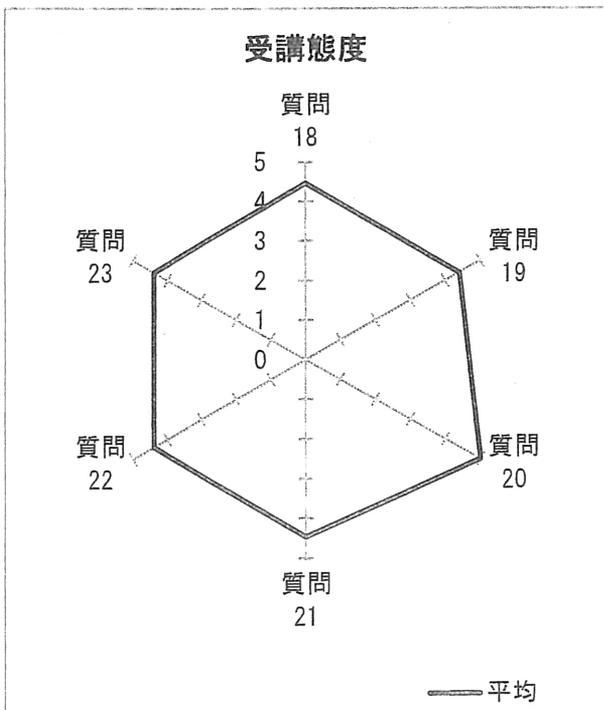
科目コード 963 (2018年度 後期)

看護学部 看護学科 中村寿子 保健医療福祉行政論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 8	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 9	4.6	4.6	#DIV/0!
質問10	4.5	4.5	#DIV/0!
質問11	4.5	4.5	#DIV/0!
質問12	4.5	4.5	#DIV/0!
質問13	4.5	4.5	#DIV/0!
質問14	4.5	4.5	#DIV/0!
質問15	4.5	4.5	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.5	4.5	#DIV/0!
平均	4.5	4.5	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	5.0
質問21	4.5
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.5

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
看護学部	看護学科	中村寿子	保健医療福祉行政論	15名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

公衆衛生看護学領域において、学生の理解が難しく、国の施策や動向に密接に関係している科目であるため、抽象的な授業ではなく、学生が理解しやすいように保健医療福祉行政の経験がある講師をお願いして専門領域を担当してもらい授業を構成した。

授業評価は、平均4.5点であった。行政用語が多く、難しいのではないかと思ったが、学生の理解や興味・関心に関して差はあまりみられなかった。

しかし、期末試験の結果を見ると理解度はあまり、高くないので、学生の自己評価とは差があるのではないか。

### II. 2019年度に向けての取り組み

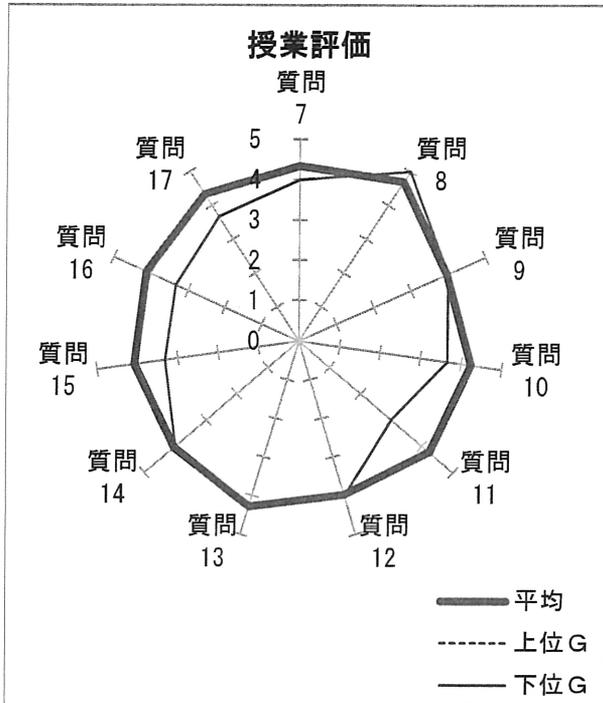
2019年度担当予定科目名：保健医療福祉行政論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

保健師の国家試験問題も、この分野からの出題が多いので、国家試験対策を進める中で、理解していくという過程があるが、国試問題の分析を講義内容に十分に活かしていきたい。

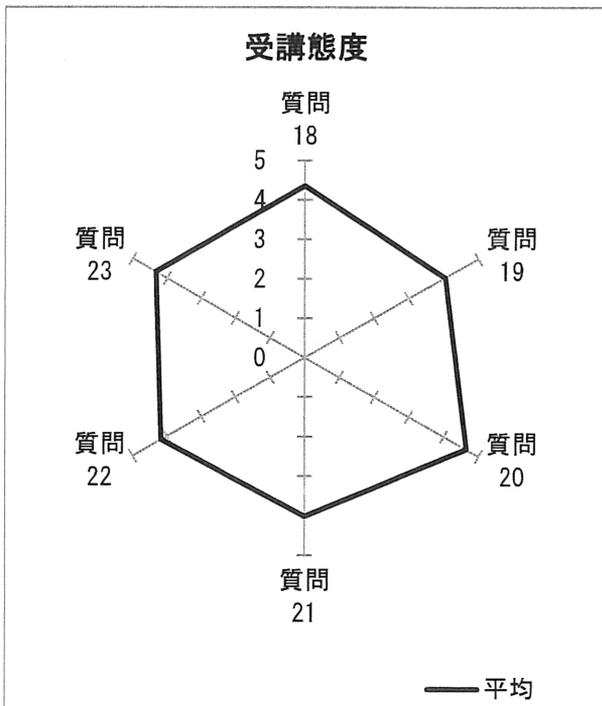
科目コード 979 (2018年度 後期)

看護学部 看護学科 永田耕司 健康管理概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.4	4.0
質問 8	4.7	4.7	5.0
質問 9	4.0	4.0	4.0
質問10	4.2	4.3	3.7
質問11	4.2	4.3	3.0
質問12	4.0	4.0	4.0
質問13	4.3	4.3	4.3
質問14	4.0	4.0	4.0
質問15	4.1	4.1	3.3
質問16	4.1	4.2	3.3
質問17	4.3	4.4	3.7
平均	4.2	4.2	3.8

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.0
質問20	4.6
質問21	4.0
質問22	4.2
質問23	4.3
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	永田 耕司	健康管理概論	45名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と次年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

今回は平均評点が4.2点と、昨年の3.7点と比べて、0.5点上昇していた。健康管理概論は食生活健康学科では国家試験対象科目であるため、1年次からその内容を踏まえて、前期の公衆衛生学と同じように3回の小テストを取り入れた形式の授業を行っている。それに定期試験・出席点とあわせて総合評価を行ってきた。健康管理概論では、毎年、3種類の資料を配布しながら説明を行っているが、よりわかりやすい説明を心がけた。そのような中で2018年度では質問8「教員の時間厳守」のみが4.6点と、昨年に引き続き最も、高得点であった。次いで、質問7「授業目的・内容の十分な説明、シラバスに沿った実施」、質問13「質問への対応」、質問17「知識、技術、理論への有用性」も4.3点高かった。質問10「教材・板書等の効果的使用」は4.2点（昨年3.7点）であった。昨年最も低かったのは、質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」、質問15「授業を理解できたかと思うか」がそれぞれ3.4点だが、今年は4.0点、4.1点であった。0.6-0.7点上昇はしたが、更にわかりやすく心がけていかなければならない。内容については、栄養や食に関する今日的な内容を入れて、よりわかりやすく説明を行ったつもりであったが、昨年と比べてすべて高点数であったのは評価できる。しかしながら、平均点よりはまだ低い。更によりわかりやすい説明を心がけていきたい。今後も引き続き、実際の栄養指導で使えるような内容で説明していきたい。今後も、より評価が高まるように、日々努力していきたい。

## II. 次年度に向けての取り組み

2019年度担当科目名： 健康管理概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

全体の評価点数が4.6点であるのに対して、健康管理概論は4.2点とまだまだ低い。他の授業に比べて、この教科が一番力を入れてきているつもりであったが、結果的にまだ低い評価が続いている。

より深い分析を行って、更なる向上を目指したい。今後も引き続き、現在の栄養や生活習慣病の常識とエビデンスが異なることも多いので、そのエビデンスを紹介していきながら、正しい知識の学びを実践していきたい。